

# ほのぼの苑だより

題字：奈良 兼治郎 様





クリスマスリース作り

十一月二十五日、当苑食堂にて十一月の誕生会を行いました。クリスマスに向けてのリース作りと、当苑正面玄関に飾るウェルカムボードの飾り付けを行いました。少しでも自然の材料で作ってみようという企画から、山からリースのツタを採ってきたり、松ぼっくりを拾い集めました。誕生会開催日までリース作りを楽しんで頂けるのか不安な気持ちもありましたが、当日は楽しそうに、ご家族や職員と飾り付けをしている入苑者の方々の笑顔を見ることが出来ました。その後、リースデイケーキのろうそくを消した時、感動して思わず涙する方もいて、誕生会がよい思い出になったのではと思います。

出来上がったリースは誕生会の写真をリースの真ん中に飾り、入苑者の方々にプレゼントさせて頂きました。誕生会を通して入苑者の方々と一緒に充実した楽しい時間を過ごすことが出来たと思います。行事やイベントをこれからも入苑者の方々と楽しんでいきたいと思えました。

(越後谷 由香子 記)



ほのぼの苑 美人コンテスト

十一月八日に第一回ほのぼの苑美人コンテストが行われました。今回のコンテストは、男性職員が女装をし、美人アピールを行い、入苑者代表の方による審査で優勝を決めるという内容です。女装は私にとって人生初の体験なので、自分の女装した姿を想像すると不安で一杯になりました。コンテスト当日、女装の準備をする時間になり、出場者が一室に集まりました。部屋の中は異様な雰囲気となりましたが、用意された衣装に着替えていくとやるしかない、やるからには優勝したいという思いが芽生えてきました。着替えが終わり、メイクを女性職員にしてくださいましたが、メイクが完成していくにつれ、女性らしくなる自分を見て、メイクの力に感動しました。出場者全員の準備も終わり、いよいよコンテスト開始となりました。真っ暗なステージの中をスポットライトを浴びて入場しましたが、独特の雰囲気心臓の鼓動が聞こえる程緊張していました。審査では、僅差の戦いとなりましたが、優勝する事ができました。今回の事で新しい自分を見つけられる良い機会となり良かったと思います。入苑者の方々にも喜んで頂けたようで、次回コンテストにも参加し、一位の座を防衛したいと思えます。(小林 賢太 記)





# ほのぼの苑 ちよつとイイ話

「ほのぼの苑 ちよつとイイ話」  
は、苑内での感動する話をご紹介します。  
するコーナーです。

## ちよつとイイ話

十一月の業務日誌より

十一月三日(土)

本日は文化の日の祭日であった為、ご家族の面会が多かったように思いました。お子さん、お孫さんに会われた入苑者の方々を見ていますと、普段より笑顔が多く楽しそうにされていました。入苑者の方の中には、家族の方がまだ来ないとそわそわして心配なさったり、逆に楽しそうに待つておられる方、様々な様子で家族の方との面会を待つているように感じました。面会の際、楽しくお話ができるように努めていきたいと思いました。



十一月四日(日)

ある入苑者の旦那さんが「ウチのお母さんの服って何号かな？」と聞かれ、「やせ型なので九号で大丈夫だと思えますよ。」と話す。「良かった。これで冬服が買える。」と話されておりました。病気になるから徐々に痩せ、サイズがわからないが、素敵な服を着せたいと話されておりました。いつまでも自分の妻を大事に思う家族の優しさに感動しました。

十一月十五日(木)

昨日、大久保小学校の生徒さんが「懐かしいの歌」を歌ってくれました。その時に入苑者の皆さんに配って下さった歌詞の書かれた本があります。昨日も今日もその冊子をずっと見ながら「昔の唱歌はやっぱり一番いいなあ」と話される入苑者の方がいきました。昨日の行事が良い刺激になったのだと感じました。



十一月十八日(日)

今日は曾孫の誕生会に行くと言うことで外出された入苑者の方がいきました。帰苑してから色々な話をしてくださいました。曾孫さんはまだ二歳でヨチヨチ歩きが上手になってきたばかりでとても可愛いと話されていきました。曾孫の成長を楽しみにこれからも長生きして欲しいと思います。

十一月二十五日(日)

今日は十一月の誕生会がありました。経管栄養の方で離床し、参加された方がいます。その方は最近離床できずにはいましたが、家族の方が参加して下さる事からもパジャマから服に着替えて特別な時間を過ごしました。家族と一緒にリリースを作り、涙していました。居室に戻ってから、「楽しかったですか？」と訪ねると領き喜んで頂けたようです。家族の方も「いつも面会に来ると目を開けないのに、今日は目を開けてくれて良かった。」と言っておりました。誕生会で喜んで頂けて本当に良かったです。また沢山のアイデアを出し、良い誕生会を行っていききたいと思えます。





第十九回 家族会 議事録

第十九回 家族会は、平成十九年十一月二十五日(日)午後二時より、相談室Iにて『ほのぼの苑の食事について』をテーマに行われました。ほのぼの苑だよりの誌面にてグループ討議、質疑応答に関する資料を掲載致しますので、ご参加頂けなかったご家族の皆さんもご覧ください。

十二月の家族会は、十二月二十七日 午前十一時三十分より食堂にて、『バイキング』を行います。今年最後の家族会は、入苑者の方との普段入苑者の方々が撰られている食事について、当苑の工夫などを紹介したいと思ひます。お忙しい中とは存じますが、是非ご参加頂けるよう、ご協力よろしくお願い申し上げます。

◆質疑応答◆

Q 糖尿病食等の療養食を摂取している人への差し入れは可能ですか？

A 差し入れをお持ちの際は職員まで声かけしてください。病状によっては食べる事が出来ない物もありますし、差し入れを食べる時間によっては食事の摂取量も変わってきます。きちんとした栄養管理を行う上でも重要ですので、お知らせ下さい。今後は入苑時、食事についてもきちんとしたご説明をするよう徹底致します。

Q 経鼻栄養から経口摂取へと移行できるように頑張っているようですが、誤嚥が起きてしまった時の対応マニュアルは準備されていますか？

A 誤嚥事故に関するマニュアルは、事故対応マニュアルの一つとして、設置されています。またマニュアルだけでなく、言語聴覚士による嚥下機能、誤嚥についての勉強会や急変時対応の勉強会と訓練を定期的に行っており、職員の意識向上にも努めております。

Q 今日初めて刻み食ときざMIXを食べてみたが、刻み食よりきざMIXの方が食べやすく、美味しかった。入苑している人にとって良いことであれば、施設にお任せしますので、様々な試みを行って欲しいと思ひます。

A 今後も入苑者の喜び作りの為、食に限らず様々な取り組みを行っていくように思ひますので、皆様にもご理解とご協力をお願いいたします。



幸福

私は八年程前から、家の新築と子供に手が掛からなくなったのをきつかけに家の前の駐車スペースで本格的にガーデニングを始めている。今は十二月で外は雪景色。ガーデニングには程遠いと思われるこの季節から実は来年の花いっぱい計画はスタートしている。一年に二回、六月と十二月に通信販売の花のカタログが何社から届く。私は毎晩家事を終えてからそのカタログを開き、飽きもせず春から雪が降るまでの一年中家の前に花が途切れない様に花の咲く時期を考え、スケジュールをたてる。まず早春、パンジーやピオラが梅雨時まで庭先を飾り、初夏から晩秋までに無くてはならないのが、サフィニアやペチュニア、ジニア、日々草等の花。霜が降り雪が降り積もるまでは寒さに強い葉ボタンの登場となる。花が咲いた場面をイメージし、あれにしようか、これにしようかと悩むのがまた楽しい。私の場合、花苗は園芸店で購入するものもあるが、ほとんどは種から育てている。小さな種を播き、双葉が出て沢山の美しい花を咲かせる作業は、子育てにも似て愛情をかければかけただけ素晴らしい結果となつて返ってくる。水やりや植え替え、花がら摘み、虫退治と地味な作業も多く自己流の為、失敗することも多いが春から秋まで休みの日には麦わら帽子に長靴のスタイルで頑張っている。私の家は道路沿いの為、花一杯になった庭を見に犬の散歩やウォーキングのコースにしている方もいれば、わざわざ車のスピードを落として通り過ぎる車や、車を止めて眺めていかれる方もいる。夕方、水やりをしながら全然知らない人と花の育て方や花の名前、どこ

から買ってくるのか、何の肥料を使っているのかと、何十分も話し込むこともしばしば。花屋と間違つて入ってきた人に「この花のお値段はいくらですか？」と聞かれたこともあった。苦勞して育てた色とりどりの花が咲き、蝶々がヒラヒラ飛んでいる様子を見てみると、とても幸せな気持ちになつてくる。今では自分の趣味でやっているというよりも、楽しみにしてくれている人達の為に頑張っている様な気もする。鉢だけでも数えてみると百個は越えていた。ちよつとやり過ぎちゃったかも。でも自分の好きなことで他の人も幸せな気分させてあげるのは悪くない。幸福のお裾分けといった所だろうか。我が家は近所でも有名なスポットになりつつあるようだ。

ポツリと一言

表紙を飾ったクリスマスツリーですが、入苑者のご家族から寄付していただいた杉の木です。BGMと併せて、ほのぼの苑のクリスマスモードを高めております。面会の際には入苑者の方とご覧になつてはいかがでしょうか。

発行



医療法人 正和会

介護老人保健施設 ほのぼの苑

〒018-1401

秋田県湯上市昭和久保字街道下 92-1

電話 018-877-7115 FAX 018-877-7481

ホームページ

http://www.seiwakai-akita-no1.or.jp/

編集責任者 加藤 稔樹

発行責任者 小玉 敏央